

臨床実験

zcm は、すべてのタイプの癌患者の癌治療や癌転移を予防するために効果的に使用することができる。zcm は癌の痛み、胸水のための胸膜腔内注入、リンパ浮腫および癌転移による脳浮腫の治療に用いることができる。

zcm 治療用化合物の応用例を以下に述べる。

例 1：

46 歳の女性が重度の頭痛や吐き気の症状を呈した。患者は、手術、ホルモン療法および化学療法を用いてステージ II 乳がんのための過去 16 ヶ月治療を受けていた。

頭部の MRI スキャンは、複数の脳転移を示した。患者は症状緩和のためにデキサメタゾン錠剤およびフェニトインを投与されている。その患者はさらに抗癌治療を受けることを拒否した。

患者は毎日 500ml の zcm 溶液を注入して治療を開始した。彼女はデキサメタゾンの服用を減少させ、最終的に 5 日間でデキサメタゾンの服用をやめた。彼女の頭痛と吐き気は制御された。患者は zcm 治療化合物を 12 日間服用し続け、その間症状を経験しなかった。患者は次の 48 日間、毎日 3 回 100ml の本発明溶液を服用し続けた。

zcm 治療剤の複合による治療開始 61 日後に撮影された MRI では、脳転移のサイズが 70% ~90% 減少していることが示された。

例 2：

58 歳の女性患者が、複数の臓器に転移したステージ IV の浸潤性乳管癌（複数の肺斑および 2 つの脳転移を含む）を有する乳癌と診断された。彼女は化学療法と放射線療法を拒否した。彼女は 500ml の zcm 溶液を毎日 12 日間注入して治療した。

患者の症状（咳、頭痛、悪心を含む）は徐々に改善した。8 日間の治療後、患者の一般的な健康状態は十分に改善され、彼女は小さな食料品店で機能し、働くことができた。患者は、zcm 溶液を 100ml、次の 48 日間毎日 3 回服用し続けた

62 日間の治療後の胸部 X 線写真では、肺転移の縮小が 60% 以上認められた。脳 MRI スキャンでは、2 つの脳転移のサイズが 50% 以上減少していることが示されました。

例 3：

54 歳の男性の喫煙者は、長期の咳や胸の痛みを訴えていました。彼は頭痛、吐き気、発言と運動の困難、そして 3 週間の視力障害を経験していました。胸部 X 線検査では、腫瘍が検出された。胸部と頭部のコンピュータ断層撮影（CT）スキャンでは、脳腫瘍の重篤な肺

癌および複数の脳転移が確認された。患者は対症的軽減としてデキサメタゾンおよびフェニトイン錠剤を処方され、彼自身の要求に従って特定の癌治療を与えられなかった。

患者は毎日 1000ml の用量で zcm 溶液の静脈内注入で治療を開始した。治療の 7 日以内に、患者の頭痛が著しく緩和され、患者の悪心およびぼやけた視力が減少した。治療の 10 日以内に、患者は肺および脳に症状を示さなくなった。患者は、毎日 500ml の用量で zcm 溶液の注入をさらに 10 日間続けた。その後、患者は zcm 溶液を毎日 100 ml、3 回、40 日間飲み続ける。

治療 63 日後の胸部および頭部の CT スキャンでは、肺の腫瘍が 50%以上縮小し、数およびサイズにおいて脳転移が劇的に減少したことが示された。

例 4：

26 歳の女性患者は、MRI で手術不能な多形性グリア芽細胞腫と診断され、頭部の左側および左側の頭痛、悪心、麻痺、左足の衰弱を経験した。生検は行われなかったが、MRI は多形性グリア芽腫の診断を示唆した。患者をステロイドおよびテモダル化学療法で 1 カ月間治療した。しかし、彼女の症状は短期間の改善後に悪化する。

患者は化学療法をやめ、zcm 溶液と毎日 500ml の投与量の組み合わせで 20 日間、輸液で治療を開始した。彼女は徐々にデキサメタゾンとフェニトインの用量を減らし、治療薬の zcm 組み合わせで治療を開始してから 14 日後にこれらの薬物の服用を完全にやめた。

脳腫瘍に関する患者の症状は徐々に改善し、zcm 治療で約 20 日間の治療で完全に消失した。患者は zcm 溶液 (100ml、1 日 3 回、40 日間) を続けた。

zcm 剤の併用による治療後 62 日目の MRI では、60%以上の脳腫瘍の縮小と脳浮腫の排除が確認された。

例 5：

65 歳の男性は腹痛を訴え、過去 2 ヶ月間に著しい体重減少があった。

最初の血液検査結果は、総ビリルビン:78mmol/L、GGT149U/L、ALT187U/L、AST113U/L、CA19-9:385U/L (正常範囲<37U / mL) 。

超音波検査およびコンピュータ断層撮影 (CT) は、肝臓における多発性転移を伴う膵頭部の腺癌を示唆した。膵頭部には 38×42mm の腫瘍があり、肝内および肝外の胆道樹は拡張した。

患者は黄疸と痛みを和らげるために胆管ステント留置処置を提案されていたが、彼は拒否した。

この患者に、500ml の用量の zcm 溶液を毎日 20 日間注入して治療した

彼の腹痛は治療の 5 日後に減少し、治療の 7 日目には痛みは完全に消えた。

10 日間の治療後、患者の血液検査は、総ビリルビン：56mmol/L、GGT：114U/L を示した。ALT：85U/L、AST：73U/L、CA19-9：184U/ml。

患者は 10 日間の注入を続け、臨床的に改善し続けた。治療の 21 日目に、ビリルビンレベルは 32mmol/L であり、CA19-9 は 106U/mL であった。

患者は、1 日 3 回、100ml の用量で zcm 溶液を経口適用して治療を続けた。

彼は体重 4kg を回復した。63 日間の処置の終わりまでに、対照 CT スキャンは、膵頭部の腫瘍の縮小を示した：12mm×15mm および肝転移の痕跡はなく、CA 19-9 レベルは 46U/ml であった。患者は、現在の病気の症状および愁訴から解放された。

例 6：

前立腺癌の診断が確定しており、脚にびまん性の骨転移および甚大な痛みを伴う 71 歳の男性患者が、X 線スキャンによって確認された。前立腺癌は前立腺生検で 1.5 年前に診断され、ホルモン療法が進行し、ホルモン療法を中止することになった。患者は赤血球数が 3.2 百万 / ヘモグロビン (ヘモグロビン 9g / dL) で非常に貧血であり、疲れやすく、生化学検査で血清カルシウム濃度 (3.5mmol / l) が高かった。彼の血清前立腺特異抗原 (PSA) は 260ng / ml であった。この患者は、ボルタレン注射、ソルメドロール注入によってうまく制御されない骨の痛みのために機能することができず、弱く感じ、1 ヶ月間に体重が 5kg 弱に減少した。

患者は毎日 500ml の用量で zcm 溶液を注入して治療を開始した。彼の痛みは、7 日間の治療後に 70% 以上改善した。10 日後以降は、2 日ごとに同じ注入治療を続けた。彼のエネルギー、生活の質と痛みは、15 日間の治療で改善し、食べ、眠りを良くし、鎮痛薬を 70% 減らすことができた。20 日後、痛みは投薬を全く使わずに完全に止まった。この日の彼の血液検査では、血清カルシウムレベルが 2.5mmol/L に減少し、赤血球数が 420 万マイクロリットルに増加し、ヘモグロビンが 10.7g / dL に増加した。彼の PSA は 90ng / ml まで低下していた。

20 回の注入療法の後、患者は引き続き 1 日 3 回 100ml の zcm 溶液の処置をとった。

上記の組み合わせの 60 日間の治療で、患者は 3kg の体重を回復し、血液および生化学検査で正常血中レベル、ヘモグロビン、PSA は 40ng / ml、血清カルシウムレベルは正常範囲で

あった。患者の生活の質は良くなった。彼は病気の症状無く、旅行し、機能します。彼は骨転移の検査やスキャンをしないことに決めました。血液検査、生化学検査、超音波スキャン、X線検査で異常は認められなかった。

実施例 7：

リンパ芽球性白血病と診断された 14 歳の少女で、患者は化学療法を受けずに成功した。彼女は重度の貧血、血小板減少、白血球減少、末梢血で 72% の芽球数、全身性真菌感染、高熱、出血、下痢、肺炎およびすべての人工呼吸を伴う化学療法誘発性の骨髄無形成症を発症した。

患者には、毎日 400ml の用量で 10 日間、そして 2 日間毎日 20 日間、zcm 溶液を注入して治療した。熱および下痢は、治療の 10 日後に減少し、完全に正常範囲にあった。20 日目に糞便が正常に戻った。患者の血球数は、治療の 20 日後に劇的に改善し始め、それまで彼女のために 2~3 日おきに行われた輸血が必要でなくなった。彼女の芽球の数は、治療の開始から 20 日で末梢血で 16% に減少した。

治療の 30 日後、患者の血球数は正常範囲にあり、発熱、下痢性肺炎および全身性真菌感染の徴候から解放された。

患者は治療の開始後 12 日目から呼吸して食事をしていった。

患者は 70ml の用量の zcm 溶液を毎日 3 回 30 日間毎日服用し続ける。65 ヶ月で骨髄生検が行われ、急性リンパ芽球性白血病の完全寛解を示した。

実施例 8

骨転移および CT 転移および肺生検による脳転移を伴うステージ IV 非小細胞肺癌(NSCLC) の診断を受けた 66 歳の男性。

患者は特定の抗癌療法を拒否し、トラマドールのみ投与した。痛みのためのデキサメタゾン錠剤、フェニトインおよびモルヒネ注射。

痛みの治療にもかかわらず、彼は主に胸部および脊椎の腰部に重度の頭痛および骨の痛みを経験した。

患者には、1000ml /日の用量で 10 日間、zcm 溶液の静脈内注入によって投与された。10 日後以降、患者は毎日 500ml の用量の zcm 溶液の注入を 10 日間続けた。

3 日間の治療後、頭痛が軽減し始め、その後 10 日間で骨の痛みが消えた。彼は治療の開始

から 16 日後にモルヒネを服用せず、トラマドールとデスメソンのみを経口投与し続けた。患者は、トラマドールとデスメタゾンの用量を減少させ続けた。治療の 20 日以内に、彼は鎮痛薬なしで痛みから解放された。

注入治療の 20 日後、患者は、zcm 溶液を 100ml、1 日 3 回 40 日間経口適用し続けた。

患者の一般的な健康状態は改善し続け、治療の状態および生活の質は、1 ヶ月の治療後に著しく改善した。60 日間の治療終了後、脳浮腫の徴候のない治療前の CT スキャンとの比較で、肺腫瘍のサイズが 64mm×53mm から 24mm×21mm に減少し、脳転移のサイズが 32mm×29mm から 21mm×17mm に減少していた。